

エヴァンゲリウム・カントライ

Evangeliums-Kantorei

〒251-0861 神奈川県藤沢市大庭 5529-8 シャルマンコーポ 404 小山方

Tel. 070-2834-4304

郵便振替 00100-3-21060

**鹿が谷川の水を慕いあえぐように
神よ 私のたましいはあなたを慕いあえぎます。（詩篇 4 2 篇 1 節）**

佐藤 義則

鹿は危険を覚悟の上、谷川の水を求めて急斜面を降りて行く。断崖の危険ばかりでなく、猛獣の急襲の危険もあった。

この一年二ヶ月を経て、この鹿のように生ける神を求めて慕いあえぐ詩篇の作者の思いがひしひしと伝わってきます。

東京都内は三度にわたって緊急事態宣言が発出され、私どもの教会では同宣言にかかわらず、集まっての礼拝を何度となく休止し、録画配信のみの礼拝を余儀なくされました。生ける神を求めて慕いあえぐたましいの叫びが方々から聞こえ、「門戸を開かねば」という思いに駆られながら、ぐっと堪えて「もうしばらくの辛抱です」と声をかけてきました。ただひとりひとりの霊性が心配で、渴いて枯渇しないようにと祈るばかりでした。

**いつになれば 私は行って
神の御前に出られるのでしょうか
同 2 節**

この 2 節は私たちの切実な思いを表わしています。感染が収束し、気兼ねなく教会に集って礼拝が行われ、心行くばかり賛美をささげる時が一刻も早く来るように、共に祈ってまいりたいと思います。

私は自分のうちで思い起こし
私のたましいを注ぎ出しています
私が祭りを祝う群衆とともに
喜びと感謝の声をあげて
あの群れと一緒に 神の家へ
ゆっくり歩んで行ったことなどを
同 4 節

この節を読むと、学生時代、信仰の友と利根川の河川敷に行き、牛の放牧されたのどかな草原で聖書と聖歌だけを持って、終日過ごしたことを思い起こします。燦燦と輝く太陽と涼風に誘われ、大きな声で声がかかるまで賛美したのを忘れられません。賛美は私たちのたましいを潤し、力にあふれさせます。

一昨年まで、エヴァンゲリウム・カントライは被災地・宮古市で演奏会を行ってきました。その働きは、なおも深いいたみを抱えた人たちをどんなに力づけ励ましてきたか知れません。今、目に見えない災害で孤独を感じ、不安と恐れの中にある人々に、み言葉の命と力が込められたカントライの歌声がもっとも必要とされている時なのに、それがかないません。その歌声が届けられる日が早く来るように、祈りつづけてまいりたいと思います。

（日本ホーリネス教団 木場深川キリスト教会牧師）

○19～20世紀におけるドイツの「災い」

この時代の災いは、「二つの大きな戦争」、「ナチスによるユダヤ人への迫害」、そして「ドイツの福音主義をめぐる教会の危機」と言えるでしょう。これらはすべてが互いに関係していますが、このような災いの中で信仰の先輩たちはどのような思いを持ってその時代を生きていたのでしょうか。4年に及ぶ長期戦となった第一次世界大戦は、多くの人々と武器をはじめとした大量の物資を総動員した戦争でした。その結果、一般市民の間では食料暴動や反戦ストライキが多発し、人々は大きな不満や不安を抱えていました。更に、この戦争の終戦直後からスペイン風邪が流行し、世界全体で5,000万人とも一億人とも言われる被害をもたらしました。戦時体制に組み込まれた軍隊と労働者の移動が流行の一因とも言われています。

また、このような中、ナチス政権が成立し、プロテスタント教会の中には、政権を積極的に支持する運動を始める教会も出てきました。それに対し、聖書において証されている「みことばのみ」「キリストのみ」の主張から始まる宣言を掲げて真の教会として立ち続けようとする信仰の闘いも始まりました。その闘いの中で、ナチス政権による教会への弾圧もありました。

そのまま第二次世界大戦がはじまりますが、戦時下にあつて、人々は、ユダヤ人の大量虐殺という過酷な現実にも直面していました。

○二人の教会音楽家

フーゴ・ディストラー(1908-1942)と、エルンスト・ペッピング(1901-1981)は、この時代に生き、信仰者として、また教育者として活躍しました。彼らは、多くの作品(特に合唱曲とオルガン曲)を残しましたが、その中でも教会の礼拝のための作品が多く作られています(ディストラー:「教会暦合唱曲集」、「宗教合唱音楽」、ペッピング:「シュパンダウ合唱曲集」等)。また時期は違いますが、共にベルリンのシュパンダウ教会音楽学校(当時)の職にも就き、教会に仕える賛美の奉仕者の育成にも力を注ぎました。この教会音楽学校では後に、世界的に有名な教会音楽家ヘルムート・リリング(1933-)も教鞭を執っています。〈カントライ創設者、岳藤豪希はリリングに師事)また、二人とも16～17世紀の特に聖書のことばを忠実に音楽で表現した作曲家シュッツの音楽に大きく倣っていることが作品にあらわれています。彼らの教会音楽作品、特に合唱曲集には、ドイツの宗教改革以降に生まれた多くのコラル(賛美歌)をもとにした合唱曲が収められています。

ディストラーは1933年に出版された「教会暦合唱曲集」の序文で、その合唱曲集が教会の礼拝で用いられるためのものであること、戦争による徴兵によって教会の聖歌隊に男性がいない状況に合わせて男声パートを他のパートに置き換えていること、それぞれの声部

についての配置や歌い方についてなどを細かく説明しています。実際にこの曲集には二〜三声の比較的短い曲だけが収められています。また彼は、数々の学校において教鞭を執っており、1937年にはベルリンの国立音楽教育・教会音楽大学の名誉ある職に任命されましたが、ナチス政権が政府に反対する教会と教会音楽に対して敵意を抱き、困難が増していたため、シュトゥットガルトに移ることになります。この頃から彼は政府の圧力、敵意、徴兵の脅威などに悩まされることになります。

ペッピングも教会暦に従う合唱曲、礼拝での会衆と聖歌隊との交互歌唱曲、詩篇、ボヘミア兄弟団の賛美歌を用いて編曲された作品などを残しています。

○礼拝のため

この困難な時代にあって、彼らが作曲のために用いた賛美歌の数々は、礼拝において会衆を聖書のことばに向かわせるための賛美歌でした。会衆賛美と同じように聖歌隊による合唱も礼拝において主に感謝し、賛美し、みことばに聴くための重要な役割を担っているのだということ、個々の作品を通じて語っているように思われます。

また、ディストラーもペッピングも専門的な教育者としての立場はありましたが、礼拝用の合唱曲を、専門の音楽教育を受けた人たちのためというよりは、礼拝に集う一般信徒のため、信徒の中から集められた聖歌隊（子どもから大人まで）のために作ったとも記しています。

○結び

以上、〈災いの時と賛美〉についてシリーズで3回にわたってお伝えしてきました。このシリーズを終えるにあたり共通して言えることは、どの時代のどの災いの中にあっても賛美が絶えず献げられ、生み出されてきたということです。たとえ賛美ができないような苦しみや悲しみがあり、賛美の声を出せない状況に置かれていても、賛美は主からのものであるからです。

私たちがどうしたら良いのか分からない時にも、主はご臨在のうちにすべてに働いておられます。これまで主が成してくださった恵みに感謝しつつ、御前にへりくだって、主の教えてくださる「時」を待ち望みます。

「だれが、私たちをキリストの愛から引き離すのですか。苦難ですか、苦悩ですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。…しかし、これらすべてにおいても、私たちを愛してくださった方によって、私たちは圧倒的な勝利者です。私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いたちも、支配者たちも、今あるものも、後に来るものも、力あるものも、高いところにあるものも、深いところにあるものも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。」 ローマ人への手紙 8:35, 37-39

(長津田キリスト教会員)

参考文献：ニューグローブ世界音楽辞典

収入	2020 年度予算	2020 年度決算	達成率
献金	400,000	218,000	54.5%
賛助会費(個人)	300,000	311,560	103.9%
賛助会費(教会)	600,000	576,500	96.1%
団費収入	370,000	372,000	100.5%
受取利息	13	5	38.5%
諸会計収入	10,000	0	0.0%
収入合計	1,680,013	1,478,065	88.0%
繰越金	485,374	446,295	91.9%
収入総合計	2,165,387	1,924,360	88.9%
支出	2020 年度予算	2020 年度決算	達成率
人件費	1,130,000	1,080,000	95.6%
団員研修費	20,000	0	0.0%
交通費	300,000	0	0.0%
会場費	70,000	0	0.0%
広報費	70,000	46,011	65.7%
通信費	30,000	8,904	29.7%
電話料	30,000	29,663	98.9%
消耗品費	15,000	9,270	61.8%
会議費	3,000	0	0.0%
事務所費	120,000	120,000	100.0%
手数料	20,000	28,644	143.2%
予備費	100,000	13,172	13.2%
支出合計	1,908,000	1,335,664	70.0%
繰越金	257,387	588,686	228.7%
支出総合計	2,165,387	1,924,360	88.9%

事務局から

☆ 活動予定

12月4日(土) 九十九里教会クリスマスコンサート

2022年6月4日(土) 前橋キリスト教会演奏会

* 今後の状況によって変更の可能性がありますので、ご確認をお願いいたします。

☆ 献金(2021年3月-5月) ()内の数字は件数です。

尊い献げものをありがとうございました。感謝をもってご報告いたします。(敬称略)

<賛助会>

(教会) 川越聖書教会、前橋キリスト教会(3)、宇都宮聖書バプテスト教会、東京聖書教会(3)

浦和福音自由教会(3)、北栄キリスト教会(3)、長津田キリスト教会(3)

札幌希望の丘教会

(個人) 飯島勅・千雍子(3)、高張美恵子(3)、尾原光彦、石川澄(2)、池田憲生・未知、塚本志津

<献金>

(教会) 湘南ライフタウンキリスト教会(3)

(個人) 団員、匿名

編集後記：この一年間、演奏会の奉仕が許されない中で、祈りをもって、支えてくださり感謝いたします。今は訓練の時と主が示してくださり、そのことに団員一人一人が真剣に従っております。また、再び賛美が許される「時」まで、祈りつつ歩いていきたいと思っております。(事務局)

